

# 月刊島民

中之島

Vol.12 2009 7/1

橋を渡る人の「街事情」マガジン

Are you  
Ready?

学園天国



# シマの大學生四季報

今や東京の神保町や京都左京区と並ぶ（ほんまか）大学密集地となりつつある中之島。大学生よりも、社会人＝島民向けの講座や授業が多くを占めるのが特徴だ。これらの「キャンパス」では一体どんなことを学ぶことができるのだろうか。

取材・文／大迫力 田井麻希 松本創 若狭健作（以上本誌）

## 大阪大学中之島センター

### シマの最高学府が目指すのは、島民ウェルカムの「大阪型学問」。

中之島における阪大の歴史は明治時代にまでさかのぼる。明治13年（1880）に設立された府立大阪医学校がそのルーツ。大阪帝国大学医学部を経て、学制改革により昭和24年（1949）には総合大学となった。しかし、規模が大きくなるにつれてキャンバスは徐々に豊中市へと移転。平成5年（1993）に医学部が移転したのを最後に、阪大の名は中之島から消えた。ここから04年に中之島センターが設立されるまでの11年間を武田裕センター長は「空白」と呼んだ。

「阪大はそもそも懐徳堂や適塾といった町人たちが作った学校が母体になっている。国によってではなく、街と一緒に生まれてきた。だから大阪の中心部にあることは私たちにとってとても重要なんです」

まさしく懐徳堂や適塾がそうであつたように、街で暮らす人々と意見を交わしながら

作り上げてこそ「大阪型の学問」である。その代表的な存在が大阪大学が立ち上げた「21世紀懐徳堂」<sup>註1</sup>だ。豊中のキャンパスをはじめ中之島センターも重要地点となり、

阪大における社学連携の成果を分かりやすく広めようという主旨で講演会や連続講座などを行っている。また、気軽に足を運んでもらえるように1階をオープンスペースにしたり、2階にはリーガロイヤルホテルの運営するカフェテリアを設けるなど、センター 자체をコンテンツとして提供しようとしているのも特徴的。イベントの際に訪

れるだけではなく、お茶や食事などができるのは島民にとつては実にありがたい。

また、3階から6階までの3フロアにはキャンパスイノベーションセンター<sup>註4</sup>という機関が入っている。これは産学連携などを推進し、大学の持つ知的財産を広く社会へ還元していくためのターミナルを作りたい国の方針により東京と大阪の2箇所に設置されているもので、中之島センターの発足に合わせて組織された。ここには関西圏だけでなく中国・四国地方の大学のサテライト教室や事務所が入っており、各大学にとっては都市部での入試が行えることや、在阪地元企業との連携を深められるなどのメリットがある。阪大側も「たくさんの大学が集まることで盛り上がりにつながれば」と期待を寄せてているように、日本中の大学が集まっていると思うと、島民としてはちよつと誇らしい話ではないか。

武田センター長によれば、今後はこれを「第4のキャンパス」として位置づけていきたいという。「単発の講演会だけではなく、知の集積地として大学の授業を開講し、この街を行き交う教職員や学生を増やしたい。ビジネスや歴史といった中之島の地域性を活かした講座や、たとえば健康学など阪大の持つリソースを市民のみなさんに分かりやすくフィードバックしていきたい。京阪電車も開通したことですし、京都の大学との連携も考えられます」。適塾があつた頃のように、様々な街から中之島へ学生が学びにやってくる—シマの最高学府が目指すのはそんな学園天国だ。<sup>註5</sup>



註3 カフェテリア

註2 1階をオープンスペース  
センター1階ロビーはオーブンスペースとして位置づけられている。各種セミナーのパンフレットが置かれている。島民もあり、総合施設や適塾に関する展示およびビデオも鑑賞できる。また会議室利用時のAV機器の使い方を丁寧に教えてくれるシステムも常駐。コンシェルジュも常駐。

註4 キャンパスイノベーションセンター

註4 キャンパスイノベーションセンター  
04年に東京と大阪に設置された独立行政法人国立大学財務経営センターの施設で、大阪大学が運営、管理している。もう1箇所は東京工業大学田町キャンパス内に設置されている。

註5 学園天国  
大阪府別館の北側に、明治初期に存在した「大阪英学校」についての石碑と説明板がある。この大阪英学校は学校制度の激変の中で様々な改称しながら現在の京都大学につながっている。この他、大阪女学院や立教大学のルーツは中之島の西の川口地区にあるなど、まさに学園天国と呼ぶ歴史がある。

# 慶應大阪リバーサイドキャンパス

元島民・福澤諭吉生誕の水辺でその実学精神を学ぶ。

創立150年を迎えた昨年、堂島川を見下ろすほたるまちに慶應義塾はやってきた。いや、帰ってきたのだ、と言いたくなるほど同校の歴史と中之島の縁は深い。

開学の祖・<sup>註1</sup>福澤諭吉が生まれたのは中津藩蔵敷が建っていた、まさにこの地。20代前半には北浜の適塾に学んだ。「独立自尊・実学の精神を唱えた福澤先生の人格や思想の基礎はこの大阪で築かれたんです」と同キャンパスの小崎由紀子さん。誰もが知るあの思想家・教育者はれっきとした島民だった。この川べりで、あの橋で、ニッポンの夜明けを夢見たかもしれない。ある。

明治の初めには、やはり北浜に分校第一号の「大阪慶應義塾」があつた。わずか2年足らずながら、東京から教員が派遣され、86人の生徒が英書を通じて最先端の西洋事情に触れた。「慶應大阪リバーサイドキャンパス」は、いわば130年ぶりに復活したシマの学舎なのである。

だからここで行われる講座も福澤の精神を受け継ぎ、今に伝えることを目指している。昨年は、明治の大ベストセラー『学問のすゝめ』を読む連続講座が開かれ、今月18日からは「近代日本と福澤諭吉」と題した全7回の講座が始まる。働く島民にとって、より実践的に役立つ知識は、<sup>註2</sup>碩学ならぬ夕学講座で。文字通り会社終わりの夕方6時半に開講し、経済の専門家から作家・芸術家まで、現代の知性によるさまざまな講演が東京のキャンパスから同時に中継される。取材に訪れた日は、ベンチャーワークスの草分け的存在、京都の堀場製作所社長が経営論を語っていた。

関西財界に足跡を残した慶應義塾出身者（塾員という）は少なくない。その系譜に平成の島民が新たな名を刻む日が来るかもしれない。

## 大阪経済大学北浜キャンパス

恩人に見守られながら、大阪経済の中心で金融を学ぶ。

東京兜町と並び日本を代表する金融街・北浜。経済を学ぶ大学のキャンパスとして、ここはどうつづけの場所はないだろう。大阪の恩人、五代友厚が開設した<sup>註1</sup>大阪証券取引所ビルの中にその大学はある。

1932年に設立した浪華高等商業学校を前身とする大阪経済大学は東淀川区に本キャンパスを構えるが、05年に北浜キャンパスを開設した。ここでは、社会人大学院やイブニングスクール、土曜講座といった<sup>註2</sup>ビジネスマン向けの講座が開かれている。「アカデミックな学問だけでなく実務との融合を目指しています」という担当者。IPO、M&A、デリバティブなど金融やファイナンスに関する専門的な授業を受け持つのは、大阪証券取引所やベンチャーキャピタルといった最前線で活躍する専門家や経済評論家たちだ。

「学生の方も、銀行や証券会社、企業で財務を扱う第一線の社会人なので、教室にはいい緊張感があります」と経営情報学部・加藤国雄教授はいう。生き馬の目を抜く業界だけあって、<sup>註4</sup>最新の情報を得ようと学生たちは必死だ。世界的な経済不況を受け、改めてきちんととした金融知識を身につけてみたいというニーズは高まっているようだ。世界的にも商品先物取引は堂島米会所がルーツですし、日本で最初に株式先物取引がはじまつたのは大阪証券取引所。そういう意味では先駆的な土地柄ですね」という加藤教授。何ともシンボリックな立地にあるキャンパスは、先人たちが歩んできた金融史の、まさに延長にあつたのだった。



<sup>註1</sup> 大阪証券取引所

建物正面では巨大な五代友厚像が出迎えてくれる。エントランスに設置されたパネルでは最新の機械を知らない金融の最前線」という雰囲気が漂つ。

<sup>註2</sup> 経大ファイナンス・アカデミー

今年度からは大学院授業の中から「ファイナンスに関する科目だけを体系化して受講できるコースも設置。



<sup>註3</sup> 夕学講座

年間約30回行われる講演を、丸の内キャンパスから生中継。6年(1873)に開設。英書・訳書・洋算・和算を教えるのちに東洋紡績社長となる山辺丈夫らが在籍した。リバーサイドキャンパスにて、当時の開設申請書類や運営方針書の複製が展示されているほか、今年1月には、北浜の小寺プラザビル敷地内に記念碑が完成した。

<sup>註2</sup> 大阪慶應義塾

大阪の「骨」となる人材育成を掲げ、明治天保5年(1834)豊前(大分)中津藩の蔵敷に勤番していた下級武士の次男として誕生。いつたん中津へ帰り、21歳で再び大阪へ。23歳で江戸に出るまで適塾に在籍。塾頭を務め、師・緒方洪庵から蘭学と洋学に対する姿勢を学ぶ。ほたるまちの朝日放送前に生誕の碑がある。

## 関西大学中之島センター

法律相談を通じて社会貢献を目指す。

### 大阪府立大学 中之島サテライト

歴史系を中心に生涯学習の場を提供。

近代美術や、近代英詩の世界を紹介するなど、特に歴史モノの講座に強い。「中之島」という立地からか、夕方に講座を開催するとスヌーブ姿のサラリーマンなど、シニア層以外の方にも来て頂いています。企画側としては、思わず参加者は嬉しい限り。10月にも計画しています」と担当の湯井順子さん。また、7月は中央公会堂で、大阪市立大学・関西大学と連携して公開講座を開催。テーマは「水都大阪」。こちらは誰でも参加OKだ。

7月18日(土)「水都大阪「汽水」文化の都市と暮らし」  
1・15 PM ~ 4・30 PM 参加費無料。  
安藤忠雄氏の講演と3大学教授のパネルディスカッション。  
http://www.osakafu-u.ac.jp/lifelong/extension/satellite.html

### R 立命館大阪オフィス

法律から健康まで幅広い講座。

「みんなの知的好奇心には驚かれます」と副所長の小野敏子さん。中には、札幌からの受講生もいるという。法学部から薬学部まで、12学部を抱える京のマンモス大学立命館。その幅広さを活かした講座が、中之島図書館を眺める堂島川沿いで受けられる。文学、演劇などを通じて京都を考える「京都文化講座」や、今年で11期目を迎える「大阪オフィス講座」を開催。12学部の各教授が担当するバラエティ豊かな講座内容で、昨年は漢方とのつきあい方や慰謝料の算定相場などの講義が行われた。とした中国語講座を開講している。

7月6日(月)の京都文化講座は坂田藤一郎を取り上げる。

2・00 PM ~ 3・40 PM 受講料2000円。

06-6201-3610

※中国語講座は075-465-8426(立命館孔子学院事務局)  
http://www.ritsumeijp.accessmap.accessmap\_office\_osaka.jhtml

中之島図書館別館で関西大学が行うのは、1件あたり60分間の無料法律相談。巷の法律相談は、1件あたり20分程度が相場であつたり、有料であつたりといふから、その良心的対応には驚きだ。「そもそも、この相談は授業の一環です」と、相談を担当する尾島史賢弁護士。そう、この法律相談は関西大学法科大学院の「リーガルクリニック」と呼ばれる

授業のひとつ。学生が教員である弁護士に同席し、市民の相談を無料で引き受けているもので、学生に実践の場を与えると同時に、社会貢献にもつなげたい考えだ。相談案件は、金銭や不動産、近隣問題など様々。「授業とはいえ、生身の相談者を前に、知識以外に自らの経験も踏まえて臨機応変に対応しなければいけないので、学生は真剣そのもの。60分みつちりご相談させていただきます」。何とも頼もしい存在だ。

相談曜日は月~木曜の7・00 PM ~ 8・00 PM。  
事前に電話での予約が必要。受付時間は平日の10・00 AM ~ 0・30 PM、  
1・30 PM ~ 6・00 PM(金曜のみ~5・00 PM)

06-6203-0621 http://www.kansai-u.ac.jp/hakonoshima/

## 阪南大学サテライト/ 中小企業ベンチャー 支援センター

シマの女性に嬉しい講座が満載。

毎年、マイクセラピーや話し方講座など、「内面から輝く自分に」をテーマに講座を開催。その名も「もっと女を磨く塾」は今で4年目を迎える阪南大学サテライトの人気企画だ。今も、トップモデルのアンミカさんを講師に迎える講座やカラーセラピー講座、マネー塾など女性ターリングをしたい時は阪南大の現役学生の協力を仰ぐこともある。

7月30日(木)アーミカさんの「体にやさしいペジタル&アウトドアーティ実践講座」  
7・00 PM ~ 8・30 PM 受講料3000円。  
8月はカラーセラピー講座を予定。06-6201-5520  
http://www.hannan-u.ac.jp/venture/index.html

### 大阪芸術大学 ほたるまちキャンパス

アーティストの卵の作品が並ぶギャラリーも。

大阪市が力を入れたほたるまちの街開きに際し、芸術の発信基地を造りたいと白羽の矢を立てられたのが大阪芸術大学だった。昨年7月から慶應義塾大学と同フロアにキャンパスを構える。入口に立つと、ほたるをイメージしたという大小様々な芸大の校章が描かれた光を放つ白い壁が出て迎えてくれる。芸大らしく広々とギャラリースペースを設け、在校生やOBの作品を展示。時にはイスを並べて公開講座の会場とすることもある。7月は6日~9日の期間で環境デザイン学科学生の作品を展示。秋以降もグラフィックなどを学ぶデザイン学科の学生や、漫画やアニメーションを学ぶキャラクター造形学科の学生達の作品が登場予定。もちろん、島民の観覧は大歓迎。多くの芸術家を輩出している芸大だけに、卵たちの作品も期待できそうだ。

造園や公共スペースの「デザインを学ぶ」環境デザイン学科学生の作品展「円環」は7月6日(月)~9日(木)  
10・00 AM ~ 5・00 PM  
06-6450-1515  
http://www.osakageidai.ac.jp/geidai/sisetu/hotarumachi.html

## 島民ならば学ばにヤソソソ 大学サテライト事情

中之島界隈に大学のサテライトキャンパスが急増している。大阪市都市再生振興部の大学誘致担当課が行った集計によれば、2002年以前は1箇所しかなかったのが、現在15カ所で18校(合同施設も含む)。市内では梅田や茶屋町も急増地域。大阪駅前ビルには大阪市立大学の文化交流センターと大阪産業大学のサテライトキャンパスが入っている。これにはいくつか理由がある。

都心部では長い間、過密緩和のため、新たな大学施設の設置が禁止され、大学側はより広くより安い土地を求めて郊外移転を進めた。それが一転、都心回帰へ舵を切ったのが02年だった。行政にすれば、学生が集まり街が賑わう▽市民に学びの場が提供できる▽企業と大学間の产学研連携や異業種間交流が進む…といったところがメリット。大阪市は、建物賃料の半額を助成する制度を設け、「都市再生」につなげたい考えだ。

一方の大学側は、大学の知名度を上げる▽在学生の就職活動の拠点になる▽同窓会など卒業生の交流の場が街なかにできる(これがけっこう重要だそう)…といった利点を挙げる。サテライトだけじゃなく、いずれ「中之島大学」なんてのができたりして…。

明治5年（1872）に学制が公布され、中之島には中島、田裏、肥後島の3つの小学校が開校。その後田裏橋の南詰に中之島小学校として統合されたが、大正6年の大火で焼失し、現在の科学館北側へと移転した。



創立65周年記念誌として卒業生らの手で発行された『中之島誌』は、島の貴重な史料集だ。

## 中之島尋常小学校

シマの小学校は越境入学したいほどの名門。

肥後藩蔵敷の一部を移築した由緒ある校門。教師のほとんどが高等師範級というハイレベルな布陣。グランドピアノが3台、管弦楽器は一式揃っていた。この何とも豪華な学校こそが、昭和19年（1944）まであった中之島尋常小学校だ。

現在も中之島3丁目で喫茶店「bois（ボア）」を経営する「シマの町会長」こと室谷光彦さん（78）は最後の卒業生。「ものすごい評判がよくて、福島や西淀川、遠くは甲子園から通ってくる子も多かった」という通り、島外からも優秀な生徒が集まる名門だったのだ。大企業の社長や学者になった同級生も多いという。「勉強は厳しかったけど、放課後には友だちと阪大のグラウンドに忍び込んだり、土佐堀川でよく釣りもしました」と少年時代を振り返る。

しかし、4年生になると戦争が激しくなり軍国教育へと一変。「模範校やったみたいやね。ショッちゅう視察が来て、『一人一殺』ゆうてドンゴロスを巻いた柱に突きの練習を披露させられた。それが厳しかってね」と時代を物語る思い出も。「卒業式の思い出？ 戦争中やからそんなおセンチになる暇はなかったね」というが、今もお店を訪ねてくれた同級生と、思い出話に花を咲かせるのが楽しみなんだとか。

## 菅南中学校

グラウンドは中之島公園、図書館は遊び場。

平成7年3月まで難波橋の北詰にあった菅南中学校。昭和37年（1962）の卒業生で、生まれてからずっと西天満に住み続ける「江戸前饅料理 志津可」の三代目店主・樽野博明さんは、母校を自慢げにこう語る。「レベルの高い中学校で、第一学区やったから、女の子なら60番目くらいまでの成績なら北野（高校）へ行けた。菅南～北野～東大っていう流れがあってな、俺の学年でも現役で5人東大入ったんや」。

グラウンドが狭かったため、中之島の剣先公園が運動会やマラソン大会のスタジアムだった。卒業アルバムのクラス写真も、公園の中や橋のたもとで撮られている。遊び場ももっぱら中之島で、中之島図書館には友人と放課後によく行ったそうだ。「自習室は喋られへんから食堂に行くんや。図書館行くて言うたら怒られへんやろ」。扇町高校へ進学後は、ダイビングが通学路になった。「夏はクーラーがきいてて涼しい。1階にあるあの売店、なんて言う名前やったっけ。まだやっているんかなあ」。

同窓会の幹事も務める樽野さん。「医者になってるやつ多いぞ～。そやけど元気に騒いでるのはやっぱり昔からやんちやしてた奴ばっかりや。あっはっは」。どうやら中之島には小・中・高と名門が揃っていたようだ。

地元っ子の樽野さんは、中学時代、「ヨソから来た奴が市電の定期持ってるんが羨ましいしゃあなかったんや」。



昭和22年に市立北天満小学校の一部を使用して開校。平成7年3月に扇町中学校と統合され、「天満中学校」として新たなスタートを切った。

## Memories シマの学び舎

今や公立の小・中・高校はなくなってしまった中之島だが、かつてはさまざまな青春エピソードを紡ぐ舞台だった。シマの卒業生たちに、甘酸っぱい（？）メモリーの数々をうかがった。

取材・文／大迫力 松本創 若狭健作（以上本誌）

昭和43年当時の扇町高校校舎。戦後の一期期、「扇町・中之島高校」と称していたこともある。



## 大阪市立扇町高校

還暦同窓会で惜別、ハイスクール島民時代。

玉江橋を渡ってすぐ、なにわ筋に面して正門を構えた市立扇町高校。昨年3月に統合・移転した後も、あるじのいない校舎だけがひっそりとたたずんでいる。「扇町」の名は、前身の高等女学校があった地名から。戦災により仮校舎を転々、昭和32年によく中之島に落ち着いた。

「戦後まもなく男女共学になったんやけど、女子教育の名門の伝統があってね、女子の就職が特に良かった。大手の銀行とか商社、生保…。男子も頑張ってたよ。先生は厳しかったけど明るい校風でね、ハジけたやつが多かったかな。今で言う高校デビューやね」と笑う山田富士雄さん（59）は、昭和43年（1968）卒業の20期生。新聞部の部長を務め、学内新聞の編集キャップとして活躍した。

在学中、すぐ西隣にロイヤルホテル（現リーガロイヤルホテル）ができた。これはニュース！ と取材を申し込んだ山田少年、しかし「高校生はちょっと…」とあえなく取材拒否に遭う。「夏服の開襟シャツで訪ねて行ったからホテルの人も困ったやろね。でも、いまリーガロイヤルは仕事のお得意様なんですよ。印刷会社の営業をやってましてね、高校時代に歩い

ていた中之島や福島にお得意先がいくつもある。縁ですねえ」。

母校の統合が決まった頃から同級生間の連絡が密になり、この春、山田さんの呼びかけで約50人が集まった。還暦同窓会である。「350人中13人が亡くなっていて、病気や介護で来られないやつも多かった。寂しいけどどうしようがない。冒頭に黙祷を捧げ、最後は校歌で締めましたよ」。

惜別の情を胸に、大いに盛り上がったという同窓会。会場はもちろん、懐かしい学び舎を眼下に見る因縁のリーガロイヤルホテルだった。



還暦を迎えた20期生の同窓会。「3次会まで12時間ぶっ続けで飲んで歌いました」と山田さん。



「大坂に適塾あり」。

学園天国・中之島のルーツは、江戸後期、天下に名を馳せた

緒方洪庵の蘭学塾にあつたんじやないだろうか。

「適塾記念会」評議員の大坂大学大学院教授、村田路人先生の話と、

最も有名な門下生、福澤諭吉の『福翁自伝』を手掛かりに、

適塾の学問事情をたどつてみる。

取材・文／松本創(本誌)

## 緒方洪庵という人物

まずは適塾以前の大坂の学問事情を押さえておこう。村田先生が語る。

「人口30～40万人、江戸に次ぐ大都市だった大坂を支えたのは商人たち。彼らは單にそろばんや読み書きだけでなく、商売の才覚や経営理念を磨くため、学問に熱心でした。18世紀初めに五同志といわれる富裕な町人たちが開いた懐徳堂は全国有数の学問所で、適塾とともに阪大の源流になります。また、当時の大坂は銅の精錬業なども盛んで、モノ作りの技術や知識の蓄積もあった。文化的豊かさは農村にも及び、平野にも含翠堂という私塾があつたほどです。蘭学の分野では橋本宗吉という人物がいた。彼はもともと傘の紋描き職人ですが、語学の天才でした」

そんな学問の機運に満ちた大坂へ、緒方洪庵は数え16の年にやつて来る。岡山・足守藩士の父が蔵屋敷詰めになつたためだ。体が弱かつたので武芸は早くにあきらめ、医業を志していた。大坂では橋本の弟子に

分にも弟子にも常に問うていた。そして私が最も尊敬するのは、医者・学者の社会的責任を強烈に自覚していたこと。種痘の普及という難事業にあえて踏み出したことに、それは表れていますよね」

## 適塾、その学問と氣風

適塾の門下生は、こうした洪庵の理念と学識の深さに大いに感化されたようだ。福澤論語が書いている。

…さあざまな先生の説を聞いて、その緻密なることその放胆なることじつに蘭学界の一大家、名美共に違わぬ大人物であると感心したことは毎度のことで、講義終り塾に帰つて朋友相互に「今日の先生のあの卓説はどうだい。なんだかわれわれはとみに無学無識になつたよだ」

「塾生は能力別に8～9の等級に分けられていました。1グループ数人から10人。順番に原書を読み、口頭で訳していく会読が月に5回あって、上手く訳せれば○、ダメなら●、特に出来が良ければ△を付ける。グループ内トップの成績を3カ月間続けると、上位に進めるというシステムです。かなり厳しかったと思いますよ」

会読が近づくと、塾に1冊しかない辞書『ツーフ・ハルマ』を奪い合つよう、夜を徹して調べる塾生が小さな部屋に溢れたという。その「ツーフ部屋」はいまも残つていて。

## 力ネや名声には目もくれず

それでも、適塾が「当代一の蘭学塾」になり得たのはなぜだろう。福澤は「江戸から大坂に学びに来る者はあつても、その

# 純粹に であれ。 学究の徒

「学園天国」のルーツ、  
適塾はなぜすごかつたのか？



緒方洪庵（1810～1863）「適塾アーカイブ」より

当たる町医者 中天游の「思々斎塾」へ入門して蘭学を学び、やがて師の勧めで江戸へ、

さらに長崎へ遊学し、オランダ人医師に学ぶ。大坂へ戻り、医業と蘭学塾を開いたのは数え29の年。塾の正式名称は恩師に倣つたか、「適々斎塾」といった。

などと話したのは今に覚えています。

適塾に学んだ塾生は記録に残つてゐるだけで637人。実際は約1000人に上り、

青森と沖縄を除く全国から集まつてゐたといふ。テキストは医学書を中心物理や化学の書。塾則第一条には「唯、原書を読むのみ。一枚たりとも漫に翻訳は許さず」と

あつた。福澤は「学問勉強においては当时、緒方塾生の右に出る者はいなかつた」と誇り、読書と机での仮眠の練り返しだつたら枕を使つたことがない、とか、原書を一人が音読し、一人がスラスラ書き留めていく巧みな写本の様子などのエピソードを披露している。

「塾生は能力別に8～9の等級に分けられていました。1グループ数人から10人。順番に原書を読み、口頭で訳していく会読が月に5回あって、上手く訳せれば○、ダメなら●、特に出来が良ければ△を付ける。グループ内トップの成績を3カ月間続けると、上位に進めるというシステムです。かなり厳しかったと思いますよ」

会読が近づくと、塾に1冊しかない辞書『ツーフ・ハルマ』を奪い合つよう、夜を徹して調べる塾生が小さな部屋に溢れたという。その「ツーフ部屋」はいまも残つていて。

「適塾は歴史上有名な人物を何人も輩出しましたが、故郷に帰つて医者や教育者として尽くした人も非常に多い。学問のすそ野を広げ、底上げしたという功績があるんです。緒方洪庵の姿勢、適塾のありようは、学問を志す人間、すべての大学人に求めら

## 適塾

天保9年（1838）、瓦町に開設。7年後に過書町（現在の北浜3丁目）へ移る。福澤のほか、大島圭介、橋本左内、大村益次郎、長与専斎ら幕末・明治維新时期に活躍した俊才を多数送り出す。明治の半ばに閉鎖されるが、洪庵の息子や門下生は大阪大学医学部の源流となった府立大阪医学校に参画した。建物は貴重な町人住宅として国の重要文化財に指定され、解体修理を経て一般公開されている。☎06-6231-1970 月曜・祝休



## 『福翁自伝』

角川ソフィア文庫  
晩年の福澤が、生誕から余生まで詳細に語り下ろした自叙伝の傑作。適塾時代のエピソードは勉学だけなく、酒にまつわる話や塾生同士の悪戯話なども豊富で、中之島の風景も多々登場。





『月刊島民』はここでもらえます。

京阪電車主要駅/京阪シティモール/京阪モール/デイリースタート天満橋店/ホテル京阪天満橋/ホテル京阪京橋/ブックファースト梅田店/旭屋書店 本店/旭屋書店 梅田地下街店/旭屋書店 岸島地下街店/ジュンク堂書店 大阪本店/ジュンク堂書店 梅田ヒルトンプラザ店/ブックファースト 淀屋橋店/文教堂書店 淀屋橋店/福家書店 淀屋橋店/天牛堺書店 大江橋店/紀伊國屋書店 本町店/ジュンク堂書店 天満橋店/アバンティBC OMMビル店/紀伊國屋書店 京橋店/隆祥館書店/大阪市中央公会堂/府立中之島図書館/専門学校中之島美術学院/朝日カルチャーセンター/大阪大学中之島センター/大阪大学21世紀懐徳堂/根岸大学地域連携センター/慶應大阪リバーサイドキャンパス/追手門学院 大阪城スクエア/大阪俱楽部/芝川ビル/大阪国際会議場/市立住まい情報センター/大阪商工会議所/大阪企業家ミュージアム/大阪市立中央図書館/大阪歴史博物館/奈良県立図書情報館/宗是そば/喫茶大 大阪/ネイルサロンスワンナ/吉田理容所/たまがわ鍼灸整骨院/ABC朝日放送/MANGUEIRA/TOSABORI SANDWIC HBAR/Girond's JR/じろう亭/ミニジロー/黒門さかえ/ティーハウスミジカ/BAR THE TIME 天神/N4タワー マンションパビリオン/ホテルNCB/MJB珈琲/上町貸自転車/ザ・メロディ/なんば書店カルチャーコーナー その他、取材協力先



# 大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、みんな「島民」です!

「おめでとう。ヤラズのハタチ！」

これが私が大学生のころ、20歳の誕生日を迎えた同級生にかける祝いの言葉だった。今も昔と同じだろうが、当時の男子学生の多くは、いかにして彼女を作り、ヤルかということしか考えていなかった。

ところが、高校、予備校と硬派を気取っていた私は、なかなか女子にうまく話しかけられない。つい肩に力が入り、「女になど興味はない」という、本心とはまったく逆の態度をとつてしまふのだ。我ながら哀しい性だが、それは未だに治らない。

教養部の2年間でも、彼女はいたが、肝心のヤルところまではいかなかつた。いや、正直に言おう。ヤルどころか、手を握ることさえできずには苦しんでいたのだ。

というわけで、大学3回生になって基礎医学課程に移った私は、なんとか早くその「目的」

## 中之島ふらふら青春記③ 久坂部 羊 ハウツー・ゲット・ア・ガール



つ揃いを着て、朝から気合を入れまくつていた。眼鏡はダサイのでかけず、入口で日星をつけて、あとで声をかける作戦である。受付で待つていると、紺色のワンピースを着たびきりの美女がやってきた。友人らに「あの子はオレが」と宣言して、少し間をおいて中に入った。

薄暗いホールをさがすと、「紺色ワンピースの君」は、友だち二人と壁際の椅子に座っていた。私はすかさず声をかけ、首尾よくフロアに誘い出すことに成功。そのとき、さつきよりちょっと丸顔だなと思ったが、気のせいだろうと打ち消した。

うろ覚えのジルバを踊り、途中から適当なディスコダンスに切り替えるながらも、楽しく踊つた。ところがしばらくすると、フロアの外の通路を、美しい女性が通つた。紺色のワンピースを着ている。彼女だ…。ということは、目の前のこの子はだれ？ たまたま紺色のワンピースを着ていた別人か。そう思つて見ると、やっぱり本命の君よりもかなり丸顔だ。

私は自分の早ともりに愕然としたが、今さら「人ちがいでした」とも言えない。仕方なくしばらく踊り、型どおり喫茶店にも行って、帰りは車で送つていつた。

次の週、神戸大主催のダンスパーティにも行つたが、収穫はなく、取り敢えずその人がいの彼女と付き合つことになつた。

教養部で勉強しなかつた私は、医学部に上が

を達成しようと、サカリのついたイヌ状態で、中之島に戻つてきた。  
医学部にも遊び人はいて、彼らは女性経験も豊富だ。スキーワークの同好会を作り、ツバーを企画して、阪神間の女子大生を集めては志賀高原などに練り出していた。同好会のメンバーはイケメンが多く、スキーも抜群で、モテモテだつた。彼らを目當てに、女子大生も集まつてくる。私を含むスキーの初心者は、ライオンのおこぼれを狙うハイエナのごとく、客としてツバーに参加して、必死で彼女をさがした。

しかし所詮、ハイエナはライオンにはかなわない。きれいどころはみんな持つていかかる。

ある夜、ディスコ大会（古くてすみません）でヤケ酒を飲んでいると、山口百恵似の女性が壁際に立つていて。まさか、そんな美女がと、私は信じられない思いで声をかけ、いっしょにしゃべるハイエナのことを、客としてツバーに

参加して、必死で彼女をさがした。

勢い込んで聞くと、「『晩申いっしょ』におつて、地団駄を踏んだこともある。

朝に雑魚寝の部屋で目をさますと、同好会のメンバーが寝不足の目をこすりながら帰つてくる。場所で見ると、彼女は山口百恵似ではなく、『猿の惑星』のジーラ似だった。酒の勢いはコワイにいたと言う。もちろん女連れだ。

「で、お前、何かしたんだ？」

中之島に戻つて1カ月余、恒例の医学部主催のダンスパーティーが、心斎橋の「クイーン」のダンスホールで開かれた。私はここで本

林さだおの『タンマ君』ふうに、「グヤヅイ」と

地団駄を踏んだこともある。

中之島に戻つて1カ月余、恒例の医学部主催のダンスパーティーが、心斎橋の「クイーン」のダンスホールで開かれた。私はここで本

林さだおの『タンマ君』ふうに、「グヤヅイ」と

地団駄を踏んだこともある。

中之島ふらふら青春記③ 久坂部 羊

つたら心を入れ替えるつもりだった。が、ゴーリデンウイークで早くも挫折。彼女ができるこ

ともあり、ふたたびほとんど講義に出なくなつた。

だからデートはもっぱら平日。中之島の中央公

会堂あたりを歩いたり、太鼓橋（現・バラ園橋）を渡つて東の端まで行つてみたりした。ロイヤルホテル（現・リーガロイヤルホテル）の1階

メインラウンジで、ゆつたり過ごしたものもある。

ここは奥に緑あふれる滝がしつらえてあり、店内に小川が流れる優雅な造りで、手軽にセレブ気分を味わえた。

ほかにも、当時、土佐堀にあつたココア専門店の「赤い鳥」もお気に入りのスポットだった。

今は心斎橋に移転したが、もともとは土佐堀川の左岸にあり、階段を上つて入ると、左手に応接間のようなソファコーナーがあつた。平日の午前など、2人でそこを占領して、おいしいコ

コアを飲んでいるじ、絵本の中でデートしていくような気分になつたものだ。

そうやつて気分だけは盛り上がつたが、肝心の「目的」にはいつこうに近づかなかつた。

付き合いはじめて1カ月半、私は今日こそアーストキスを決めようと、周到な準備をしてデートに臨んだ。

前期試験の最終日だったので、取り敢えず医学部の駐車場に車を停める。夕方から会い、梅田で食事。その後中之島まで夜道を歩く。ちょうど距離はあるが、その間に雰囲気を盛り上げ、あのころ、「目的」までの道のりは、つくづく遠かつた。

彼女の厳しい追及に、私はしどろもどろになつて弁解。ポール・モーリアどころではなくなり、もちろん作戦も吹つ飛んだ。

で、その彼女とはその後どうなつたか。つづいてソファアでうたた寝をしている。

くさかべよう 1955年生まれ。大阪大学医学部卒業。麻醉医、外科医、在外公館での医務官としても勤務した後、2003年『廃用身』（幻冬舎文庫）でデビュー。現代医療への提言と生きること・死ぬことについて考える契機に満ちた作風が人気を呼び『破裂』は10万部を超えるヒットに。8月発売の『中央公論』に短編「医療テロリストの素顔」が掲載予定。

## 今月のテーマ【和服】

ビジネススーツが忌々しくなる夏。が、しかし、  
暑さをもろともせず着物姿でさっそうと輝く島民を見よ!  
取材・文／田井麻希(本誌)



「着物のよろず相談屋です」



審査員／大平秀峰さん  
[NAKAGAWA1948 尼崎店] 店長  
淀屋橋・西梅田の両店舗にておなじみの島民御用達テーラー。  
その絶妙な採寸テクニックから“ゴッドハンド”的異名を持つ大平店長は、今春再オープンした尼崎店へ。アマからシマを見つめる。ちなみに今回のコスプレはボズ・スキャッグス。  
<http://www.nakagawa1948.co.jp/main.html>



「季節に合わせて色や柄を選びます」

### 博多酒菜 日月あん 坂本かなさん(30)

毎日着るのが理想ですが、調理場に入る  
ことも多いのでなかなかそういうものいません。  
お客様に和んでもらえるようなるべく和服で、  
とは思うんですが。あくまでもお料理が主役  
ですので、盛り付けの邪魔にならないよう  
控えめな色・柄を選ぶようにしています。  
着こなしも勉強中です。

めんこいなあ、岩手の農家に嫁こさ  
来てくれねがなあ…おっと失礼、つい  
岩手弁が。このお歳でシブい色を着こな  
すのは難しいのでしょうかけれど、うまく落  
とし込んでいると思います。料理などいろいろ  
なところへの気遣いもプロ意識を感じ  
させますね。



「いつの間にか数多くなりました」

### 久保田彫刻工房 独去庵主幹 仏師 久保田唯心さん(65)

リーガロイヤルホテルの文化教室で仏教彫刻を教えて今年で30年になります。この作務衣風の着物は絹や麻の反物から選び、上は特別に説いて、下のズボンは家の手作りです。彫る時にあぐらをかくのでゆったりとしたズボンでないとダメなんです。冬はこの上にマント、意外と暖かいですよ。

カタ過ぎず、かと言って崩しすぎず  
実用性と品を兼ね備えておられます。  
やはり着る人が心地良くなくてはいけませ  
んから、自分流に改良するのも良いのです。  
それにしても、こういったキャラクター作  
りのご苦労を感じさせない柔軟な笑顔はさ  
すが先生だなあ。



### 元大阪府知事 林 市蔵さん(享年85)

大正7年、米騒動が起きた時に知事をして  
いましたね。あれは理髪店で行っていた時  
でした。鏡に映る新聞売りの母子の貧窮し  
た姿に心が痛くなつて…。対策のために設  
置した方面委員は、今の民生委員の先駆け  
となつたようです。この和服姿も整髪中の  
様子を再現しているのです。

そうなんですか、散髪へ行かれる際  
もビシッと着物でいかれるのですね。  
それでも、政策は非常に柔軟なのですね~。  
林先生の目には、未来の中之島が映つてい  
たのでしょうか。一瞬、チャンバラトリオ  
の南方師匠に似てるなんて思つてしまつ  
ません。

### 着物・和小物 小町カレン 島田富美世さん(50)

着物は色々ルールがあって難しいと言わる人多いけど、自分が楽しむ分  
にはルールはないと思うんです。フォーマルな場でなければ、何でもあります。着付けはもちろん、コーディネイトから、お出かけの提案まで、  
何でも相談乗ります。ドーチカの店でお待ちしております。

センス、出ちゃいましたね。あれこれとコードの多い和装は「どこ  
まで攻められるか」が着こなしのポイントになりますが、さすがですね。ショートカットと色を落としたヘアスタイルが実際にポップ。ピンク  
の着物の柄は白ワジでしょうかねえ。しかもそれに水玉柄に見える羽織な  
んで合わせ方はほんとに今風。分かってらっしゃいます。

「政策の転機となつた瞬間だったね」



一人で入つていい居酒屋と入るべきでない居酒屋というのがある。  
残念ながら他の字の島・中之島は、一人で入るべきでない居酒屋  
が多い。ビルの中の居酒屋は一人をより独りにさせる。店内のざ  
わめきのコントラストがきつい。ざわざわざわざわではなく、ガ  
ーガーガーガージャイジャイジャイな、ざわめきだ。できればイコライザー  
で音質をやらかしたくなるようなガギグエゴ系のざわめきがある居酒屋は、  
独りぼっちをダメにする。ゴキゲンであるべき独りぼっちを罪にする。

わかつたわかつた俺はもう出る。別にこの店この酒を目当てで来たのではない。  
慣れない地下通路の中で迷いチヨット寄つただけ。そんな俺が店に入つて目を  
キヨロキヨロ動かせて悪かった。店員さん、せっかく持つて来てくれたラミネ  
ートされた料理写真付きのメニューを開くことも見ることもせずに申し訳ない。  
何でもいいから何か食わねばと入った店なんだけれど、入った途端に、ここは  
きんぴらごぼうか漬物が何かつまんで一杯だけ飲んすぐに出ないといけない  
店だと思つてしまつたんだ。俺はなんなんだ。俺はヘンコリストに載る奴か。  
しかも注文した漬物が出てきた時には目の前の酒はもうすでに半分以下という  
か残りわずかになつてしまつている。もう一杯注文しないと漬物が残るから仕  
方ない。飲まなしゃーない。胃酸過多もしばらくは酒で薄まるがただそれだけ  
のこと。結果としてそのビルの中の居酒屋で、独りが居たまれない思いの中  
で三杯の酒を飲みきんぴらごぼうと漬物を食つた。1750円だった。

古漬は曲がるが、浅漬は折れる。  
その居酒屋を出るとビルの通路だった。入つて1時間も経つてないので通  
路に響く人の声の質が変わつていた。口がへの字の中之島、冷たくするなよ  
中之島。俺はもう帰る。もう地元に帰る。帰つても歓声も拍手もないけれど  
なんだ。その時フレーズが頭をよぎつた。

「古漬は曲がるが、浅漬は折れる」。出よつた。俺は自分自身におそれ  
つた。そして翌朝、中之島を忘れかけた。(つづく)

ぱっさー・いのうえ 錦市場の漬物店「錦・高倉屋」店主にして日本初の酒場  
ライター。『Meets Regional』誌ほかで名フレーズを連発している。最近は  
「酒場ライター養成講座」などを通じて、後身の育成にも力を注いでいる様子。

## また来てしまふ、中之島。 其の三 パックー・イノウエ

### 口がへの字の中之島。

もう帰る。京阪で帰る、地下鉄で帰る黙つて帰る。デ・  
ニーロの口をして電車に乗るから許しておくれ。  
電車に乗ればみんな携帯を見ていた。なんなんだ  
この光景はと思った途端、俺の携帯にメールが届き  
俺も携帯をさわった。俺も同じムジナか。大阪から  
京阪で帰る時、京都に着くのが11時前後なら三条で  
降りて「タバーン・シンブソン」に寄つて帰ろうと  
思うが12時前後なら四条で降りて先斗町の「アルフ  
アベット・アベニュー」か祇園の酒場。中之島から  
帰りのこの夜、京阪が東福寺を過ぎて車両が地下に  
潜つた時に11時過ぎだったので迷つた。

街場でひとりで行動をしている時は行く場が限られ自由は制限される。ひ  
とりで行ける店は100軒に1軒しかない。それだけに難しい。店をやる側  
も難しいはず。独りの奴は、店や酒場があたたかいことを嫌うが金属的な冷  
たさにも辛抱ができない。ノイズは嫌うくせに静かすぎても地団駄を踏む。  
おのれもカウンターの独り客のくせに他のカウンターの独り客に好奇の目を  
向ける。酒が好きなのか他に行くところがないのかわからない。そんなこと  
を考えながら俺は四条京阪で降りた。そして先斗町の「アルファベット・ア  
ベニュー」に向かつた。

カウンターに座り鴨川を見ることもなくウイスキーの水割りの薄いめを頼  
んだ。その時フレーズが頭をよぎつた。  
「古漬は曲がるが、浅漬は折れる」。出よつた。俺は自分自身におそれ  
つた。そして翌朝、中之島を忘れかけた。(つづく)

もう帰る。京阪で帰る、地下鉄で帰る黙つて帰る。デ・  
ニーロの口をして電車に乗るから許しておくれ。  
電車に乗ればみんな携帯を見ていた。なんなんだ  
この光景はと思った途端、俺の携帯にメールが届き  
俺も携帯をさわった。俺も同じムジナか。大阪から  
京阪で帰る時、京都に着くのが11時前後なら三条で  
降りて「タバーン・シンブソン」に寄つて帰ろうと  
思うが12時前後なら四条で降りて先斗町の「アルフ  
アベット・アベニュー」か祇園の酒場。中之島から  
帰りのこの夜、京阪が東福寺を過ぎて車両が地下に  
潜つた時に11時過ぎだったので迷つた。

街場でひとりで行動をしている時は行く場が限られ自由は制限される。ひ  
とりで行ける店は100軒に1軒しかない。それだけに難しい。店をやる側  
も難しいはず。独りの奴は、店や酒場があたたかいことを嫌うが金属的な冷  
たさにも辛抱ができない。ノイズは嫌うくせに静かすぎても地団駄を踏む。  
おのれもカウンターの独り客のくせに他のカウンターの独り客に好奇の目を  
向ける。酒が好きなのか他に行くところがないのかわからない。そんなこと  
を考えながら俺は四条京阪で降りた。そして先斗町の「アルファベット・ア  
ベニュー」に向かつた。

カウンターに座り鴨川を見ることもなくウイスキーの水割りの薄いめを頼  
んだ。その時フレーズが頭をよぎつた。  
「古漬は曲がるが、浅漬は折れる」。出よつた。俺は自分自身におそれ  
つた。そして翌朝、中之島を忘れかけた。(つづく)

ちあわせ、隣のビルまで。

取材・文／大迫力(本誌)



第11回

## [理容 米倉]@リーガロイヤルホテル

シマの紳士を  
癒し続ける  
理髪室の名門。

「大阪にもホテルを出す。  
来てくれないか」。東京・  
銀座の本店で、[米倉]の  
創業者・米倉近氏がこんな  
依頼を受けたのは昭和33年  
のこと。依頼主はヤマタメ  
こと山本為三郎。“ビール王”  
の異名を持つアサヒビール  
の創始者であり、新大阪ホ  
テル、大阪ロイヤルホテル

の設立にも尽力した戦後経済界の大物である。かくして  
「大阪グランドホテル」(後のリーガグランドホテル)  
の理髪室に[米倉]の看板が掲げられることとなり、  
中之島との縁が結ばれた。

[米倉]は大正7年(1918)創業、そのルーツは帝国  
海軍随行の理容師にさかのぼる名門である。東京に比  
べ大阪での知名度はまだ覚束なかったが、「大阪の社員  
に通うように言っておくから」とハッパをかけたのは、  
銀座に本社があった電通の社長。客が客を呼び評判と

なったこの店らしいエピソードだ。

昭和40年、ロイヤルの前身である大阪ロ  
イヤルホテル誕生と同時に移転。店長の小  
澤今朝喜さんに常連客の名前を聞いて驚いた。

近鉄グループの総帥・佐伯勇、サントリー  
の佐治敬三、住友銀行元頭取・鈴木剛、[吉兆]

創始者の湯木貞一…まるで昭和の紳士録だ。「特別なこ  
とはやっていません。丁寧な仕事を心がけているだけ。  
気が休まるというか、全体的な安心感を感じていただ  
いているのでしょうか」と小澤さん。大阪を、いや日本  
を代表する紳士たちのくつろぎの場がシマの中にあった。



店内に飾られた油絵や富士山の写真  
などは常連客から寄贈されたもの。

### 理容 米倉 リーガロイヤルホテル店

リーガロイヤルホテルの7階。シャ  
ンプー、ブロー、仕上げ、顔剃り、  
マッサージという通常の調髪コース  
で10,500円。このご時世では決して  
安いとは言えないが、「芸術的」「一度  
味わうとやめられない」と言われる  
技術とサービスは一度は体験したい。  
予約優先制。 ☎06-6448-3418 8:  
30AM~5:00PM(入店) 日曜休

# 之島の説法

● 今月のお言葉

## 【啐啄同時】

そつたくどうじ



中之島持仏堂

「カイシヤで始める仏教生活」  
「仏教ではこんな風に考えます」を日常生活のヒントにするべく、  
シマの住職こと釈徹宗先生による仏教用語講座、始まり始まり!

【啐啄の機】などとも言います。指導する側と指導される側とが、絶妙のタ

イミングで呼応し、見事に成長を遂げることです。「啐」という字は、雛が卵  
から出ようとして内側からカラをつつくのを表しています。そして、母鳥が雛  
を孵そうとして卵をつつくのが「啄」です。

まさに、互いの呼吸がぴったりと合って、遅からず早からず、またと無いよ

うなチャンスをモノにする、そんな意味合いで使います。考えてみれば、カラ  
を破るような大きな転換には、「振り返ってみれば、ぴったりの時機だったなあ」  
とか、「あのタイミングで指摘してもらつたからこそ、ビビビと伝わつたよねえ」  
といった実感があるんじやないでしょうか。

(へきがんろく)

この言葉は、禅における教本『碧巖録』に出てくる言葉です。師が弟子を常に

観察していて、機が熟した時を見逃さずに、すかさず教示することによって、  
以心伝心(言葉を超えて心から心へと伝わる)の導きがおこなわれることを指  
します。「教え上手」「教わり上手」となるには示唆深い言葉ですね。

● 質問  
そもそも「相談」という行為は、なかなか難  
しいんです。相談する側とされる側に温度差が  
ありますから。ワラにもする思いで相談して  
いるのに、相手の無神経な回答で余計に苦恼が  
深くなる場合もあります。逆に相談される側が  
重い荷物を背負わされてしんどくなってしまう  
場合もあります(これを「投影」と言います)。  
相談を聞くというのは、相手の荷物と一緒に背  
負ってあげることだとも言えますからね。だか  
らカウンセリングには専門の知識とトレーニン  
グが必要なのです。

というわけで、「みんなしんどいんや」は、あ  
なたの荷物を背負わされるのはイヤだ」という  
拒否のメッセージなのです。このメッセージを  
ポジティブに受けとめるとしたら、「この人に、  
この手の相談をしてはダメということがわかつた  
つてことくらいでしょう。相談するときは、「自  
分と相手との温度差を少なくしてから本題に入る  
「相手の共感を期待しない」など「相談の技法」

7

月。大阪が水の都であることを最も実感する真夏の到来。なにしろ天神祭だ、船渡御だ。けど、あれつて水都の象徴たる中之島に背を向けて、大川を上流へ上流へ行くねんなあ、島民的にはなんか物足らん：と思ついたら、「いやいや天神祭はもともと中之島一帯が主舞台だったんですよ」という話を聞いた。お

お！ 島民魂を刺激され、思わず身を乗り出す。

「これは文化3年（1806）の地図なんですが…」

と広げて説明して

くれたのは、大阪天満宮文化研究所の近江晴子さん。「戎島町という所に天神さんの印があるでしょ。現在の川口あたりですが、ここが御旅所、つまり船渡御が向かった場所なんです」。

旅所になつた。それが江戸時代初期に御旅所が固定される。最初は雑喰場（魚市場）のあつた京町堀、次いで川口、明治に入つて松島へ。だから、船の列は堂島川を行き交い、中之島全体がお祭りムードに包まれたわけだ。

「各藩の蔵屋敷が提灯やかがり火でお迎えしたんです。たとえば、この久留米藩蔵屋敷の絵図。当時の賑わいがよ

う分かるでしょう」と近江さん。中之島航路とも呼ぶべきそのコートが変更されたのは、大戦による中断などを挟んだ昭和28年（1953）。地下下水み上げによる地盤沈下に船の大形化も重なり、橋の下をくぐれなくなつた。で、「しゃないな。ほな遡行こか。上流は地盤も固いし大丈夫やろ」となつたらしい。

だけど、メイン祭事のコースを真逆にするとは大胆というか、祭の伝統や意義が損なわれませんかね：と島民の無念をぶつけると、天神祭PR委員長の伴一郎さんがこう説明してくれた。「天満宮は商人が守ってきた神社。祭も形や格式にとらわれず、時代に合わせて変えるのが大阪人らしい合理主義いうもんでしょうな」

# 天神祭はかつて、中之島がメインステージだった。



久留米藩蔵屋敷絵図に描かれた天神祭の船渡御。  
〔神宗〕所蔵／大阪歴史博物館寄託・市指定有形文化財)



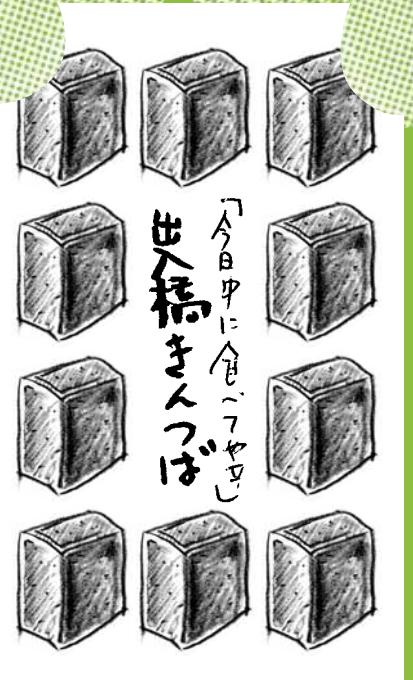
西天満小の児童から選ばれた「神童」が鉢流神事を行う若松の浜。背景の地図は文化3年発行の「増改正 摂州大阪地図」(復刻版・清文堂)。

## 天神祭船渡御

951年(天暦5年)に始まった祭の起源につながる祭事のハイライト。本宮の7月25日午後6時から。天神橋を出る供奉船、都島を出る奉持船に、列外船も合わせて150隻。開幕を告げる24日の鉢流神事は、現在も若松の浜(天満警察署向かい)で。今年は、LEDの玉を水に浮かべ、大川を「天の川」にする関連イベント(7日)も実験的に行われる。

シマにまつわるあれこれの名刺を勝手にデザイン  
ワタクシ、こういう者です。

デザイン／長友啓典



いつもお世話になってます。  
きんづばです。  
島民のみなさんにはいろんな所に連れて行ってもらひて、  
ほんまにありがとうございます。  
会社の方に連れて帰ってもらつたりね。  
私ももうすぐ80歳になるんですけど、  
材料とか作り方とか変えてないんですよ。  
小豆と砂糖と寒天と、あとちょっと塩。  
長持ちはせえへんで、  
その日のうちに食べてもらわんとあかんのです。  
ええ、どうぞ、気軽に食べてくださいよ。  
きんづばなんてほんと、デイリーなおやつですから。

【住所】〒530-0001  
大阪市北区堂島3丁目4番10号  
【電話】06-451-3889  
【営業時間】午前10時～午後7時  
【定休日】日曜・祝日

## ◎名刺のココロ

きんづばに人格を持たせるのに難儀した。なんたって、黄金のツバ。「ベッ」「ベッ」と吐くあれば。アメリカのメジャーリーグの選手たちはそれこそ、のべつまなく「ベッ、ベッ」とやるのでまさしく…。いや、話が違いますなあ。金さんですかね、韓国の金さんの帽子のつば…。これもお呼びでない。はよ、言わんかい。姓が「出入橋」で、名があのあづきの「きんづば」でんがな。ということで、できあがりました。チャン、チャン。

## ながとも・けいすけ

1939年大阪生まれ。1964年日本デザインセンター入社。1969年黒田征太郎とK2設立。エディトリアル、各種広告を手がけるほか、多数の小説に挿絵、エッセイを連載。自身が手がけた名刺デザインをまとめた『成功する名刺デザイン』(共著・講談社)も発売中。

「ぜひあの人の名刺を」「あの場所を擬人化して名刺を作ったら面白い」などのリクエストを募集します。

21 あなたの作ってほしい名刺のプランをお寄せ下さい! uketsuke@140b.jp

# トウミニン月報

やつて来る。コルテオはイタリア語で「行列」を意味し、主人公のクラウン（ピエロ）を中心に繰り広げられる祝祭のパレード。にぎやかな音楽とともに進行する個性的なアーティストたちが、驚異的なアクロバットを見せ始める。幻想的でかつ斬新な演出は、これまでの作品とは一味も二味も違うものらしい。オリンピック経験者を含む世界トップクラスのアクロバットはもちろんのこと、衣装、音楽、セットと見所満載。驚異のパフォーマンスは2005年にカラダ・モントリオールで開幕以来、全米25都市300万人以上を魅了し、シルク初の円形劇場で登場する。

## 歓迎！ コルテオ・ド・ソレイユ パレード

1984年、カナダ・モントリオールでストリートパフォーマーたちによって結成された小さなサーカス団、それが「シルク・ドゥ・ソレイユ」の始まり。当初73名のアーティストとスタッフは、今では



●「コルテオ」大阪公演  
会期／7月29日(水)～10月18日(日)  
12:00AM～/4:00PM～ 全114公演  
会場／大阪・中之島・新ビッグトップ(中之島特設会場)  
問い合わせ／ダイハツ コルテオ大阪公演事務局  
☎06-7732-8890 (10:00AM～7:00PM)  
http://ktv.jp/corteo

(道田惠理子・本誌)

特集でもお伝えした通り、慶應義塾創立150年を迎え、世はちよつとした福澤諭吉ブーム。今年出版された現代語訳版『学問のすゝめ』は売れ行き好調だし、彼が遺した警句を新聞雑誌のコラムで目にすると機会が増えた気がする。大阪にもその波が到来か、関連展覧会が相次いで開かれる。「俺の財布に諭吉とはいひ」と嘆く読者諸兄に朗報、なんと、慶應義塾が招待券をプレゼントしてくれる。

まずは、中之島の国立国際美術館で開催中の「慶應義塾をめぐる芸術家たち」。ショルレアリストの詩人で画家でもあった西脇順三郎、

谷口吉郎、彼とコラボレーションした彫刻家のイサム・ノグチら6人の表現者の世界を紹介している。

8月4日からは、天王寺公園内の大阪市立美術館で「未来をひらく福澤諭吉展」。福澤の遺品や書簡、自筆原稿などを通じ、幕末明治の激動期にあって近代化を先導した思想家の歩みを伝える。門下生だった小林一三の「逸翁コレクション」など貴重な美術品も展示される。(松本創・本誌)

●「未来をひらく福澤諭吉展」  
場所／大阪市立美術館  
会期／8月4日(火)～9月6日(日)  
入場料／大人1,200円(当日)  
大阪市天王寺区茶臼山町1-82  
☎06-6771-4874  
http://www.fukuzawa2009.jp/

●「慶應義塾をめぐる芸術家たち」  
場所／国立国際美術館  
会期／～9月23日(祝)  
入場料／大人420円  
大阪市北区中之島4-2-55  
☎06-6447-4680  
http://www.nmao.go.jp/index.html



## 福澤ラーメン 大阪にも上陸か

カヌーで川をキレイにしましょ!



●天神祭美化委員会 カヌー美化作戦  
日時／7月20日(祝) 10:00AM 桜之宮公園集合  
問い合わせ／ワイルドプラン ☎06-4701-7750  
info@naniwa-river.jp http://naniwa-river.jp/  
※参加はカヌーを持っており、セルフレスキーのできる方に限ります。

中之島が「島」たり得るのはなんと言つても川があればこそ。川が健全な状態であることは島民にとっても一大事のはずだ。そんな「川の健康」を維持するイベントが行われている。題して「カヌー美化作戦」。天神祭の船渡御の舞台で

ある大川を、カヌーに乗った清掃隊を結成してゴミ拾いをしようというのだ。主催の天神祭美化委員会は、祭当日のゴミ拾いなど、天神祭に関わる清掃活動を行っており、カヌーによるゴミ拾いもその一環として昨年から始まった。今年も昨年同様、約50艇ほどの出動を見込んでいる。手がけるのは天満橋でパソコンのサポートサービスや技術指導を行う株式会社00Hの社長・葛日

わたしと『月刊島民』  
森本圭さん 公務員



次号予告 なかのしまカンタービレ！

8月末から開かれる「大阪クラシック」は、大阪フィルの楽団員が街へ飛び出すイベント。実は彼らのルーツは中之島にあります。中之島民よ、カンタービレ！(唄うように)

●『月刊 島民』vol.13は2009年8月1日発行です！

印刷／佐川印刷株式会社

編集発行人／江弘毅(編集集団140B)  
編集発行／月刊島民ブレス  
若狭健作  
松本創  
T-1 06-6445-2105  
制作進行／堀西賢(ALEGRESCO)  
デザイン／山崎慎太郎  
表紙イラスト／奈路道程  
デザイン／佐川印刷株式会社

バックナンバーお譲りします。  
昨年8月に創刊した「月刊島民」。大きな支持をいただいていることは、「バックナンバーありませんか?」とダイビル内にある月刊島民ブレスを訪ねてくる方々の多さからも伝わってきます。さて、そのバックナンバーにつきまして、1冊につき100円をいただくこととなりました。号を重ねていくうちに保管用のスペースが必要となり、そのための維持管理費を負担していた大変形です。何卒、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いします。お問い合わせは上記の電話番号まで。

「八百八橋：j-p」なる何とも島民のココロをくすぐる名前のサイトが誕生した。名前の通り大阪の橋を詳しく紹介するサイトで、記念すべき第1回は天満橋。これだけはよくある話だが、このサイトの目玉は専門家のオリジナル原稿が読めるところ。1回目は大阪歴史博物館の学芸員である船越幹央氏に依頼するなど、なかなかの気合の入りようだ。

手がけるのは天満橋でパソコンのサポートサービスや技術指導を行なう株式会社00Hの社長・葛日



●「八百八橋.jp」  
http://www.800yabashi.jp/  
問い合わせ／株式会社00H ☎06-6910-7890

## 橋マニア 完成サイトあります

明久さんと井上行生さん。「この状況の中、中小企業は自分の会社だけではやっていけない。このページをきっかけにコミュニティが広がれば嬉しい」と葛日さん。井上さんも「今後は執筆陣も増やし、月1回の更新ペースも上げていきたい」と意気込みを語る。橋の紹介が、人々地域の橋渡しとなるかもしれません。まずはサイトをご覧いただきたい。(大迫力・本誌)

◎展覧会招待券をプレゼント  
展覧会のチケットをそれぞれ10名の方にプレゼントします。どちらの展覧会を希望するかを明記のうえ「月刊島民ブレス」(P23)までハガキまたはファックスでご応募下さい。締め切りは7月31日(金)です。



森小路けい子・茶房洛匠 森大生

# 逃<sup>の</sup>きとよる祇園・清水へ

とびきりの清涼な時間を求めて、祇園へ、清水へ。京阪電車に乗って。

主いせんどう  
**舞扇堂** 紙團扇店  
婦人用扇子 袋付き  
4,095円  
075-532-2002



主くわ  
**ぎおん徳屋**  
抹茶金時 1,300円  
075-561-5554



主カフェ・オーパル  
**CAFE OPAL**  
トンボ玉 700円  
075-525-7117



主くわ  
**茶房洛匠**  
草わらび餅 700円  
075-561-6892



主くわ  
**蒼穹**  
上うちわ(5枚入り)  
420円  
075-532-1818



主くわ  
**きんとと家 OMOYA**  
めのう 大ひもネックレス  
2,980円  
075-561-1353



主はんぺいな  
**半兵衛麩**  
巻麩(5個入) 1,050円  
075-525-0008



◎いずれも祇園四条駅または清水五条駅下車



京阪の  
おけいはん  
いはん

検索

おけいはん  
[www.okeihan.net](http://www.okeihan.net)